表情遊戯

麹町幼稚園長　土川五郎

近頃「大正幼年唱歌」に伴ふ遊戯を作つて見ましたので、茲に第一集の内、**櫻**、**ピアノ**、**飛行機**の三つを先以つ發表する事に致しました、勿論經驗も淺く力も御座いませんから、御實驗の上で十分の御批正を願はしく存じます。

一　櫻

圓形ヲ作リ圓心ニ向ク

一櫻が。一回拍手

咲いた。右手ヲ翳シテ右上ヲ眺ム、右足ヲ斜右前ニ出ス

櫻が。右足ヲ引クト同時ニ一回拍手

咲いた。左手ヲ翳シテ左上ヲ眺ム、左足斜左前ニ出ス

野にも。左足ヲ出シタル儘兩手ヲ兩側ヤヽ下ニ開キ掌ヲ下ニシ上體ヲ前屈シテ見下ロス樣ヲナス、

山にも。左足ヲ引キ付ケ兩肱ヲ肩ノ高サニ上ゲ兩手ヲ頭上ニ上體ヲヤヽ後屈シテ山ヲ眺ムル樣ヲナス

さくらがさいた。四回拍手ス

さいた。一回拍手

さくらに。一回拍手ス

あさひが。右足ヲ大キク斜右前ニ一歩蹈ミ出シ兩手ヲ斜右上ニ（右手ヲ十分ニ伸バシ左手ヲ之レニ添ヘル）掌ヲ下ニス

さして。右足ヲ引クト共ニ兩手ヲ體前ヲ通シテ斜左下ニナガス

野山。 左足一歩前ニシ兩手ヲ體前乳ノ高サノ所ヨリ掌ヲ下ニシテ眞直ニ突キ出ス

のこらず。 出シタル兩手ヲ左右ニ開キ兩側マデ廻ハス

は。 ニテ掌ヲ上ニ反ス

なのく。 上體ヲ後屈シツヽ、兩手ヲ頭上ニ左右ヨリ丸クアゲ、此時目ハ手ニ伴フ

も。 足ヲ引キ兩手ヲ兩側ニ下ロス

二櫻が散るよ。 兩手ヲ體前高ク指先キヲ合セテ上ゲ直チニ漸次左右下ニ開ク、此ノ時兩指先ヲコマカニ動カシテ散ル樣ヲナスコト七回

櫻が散るよ。 同前

蝶々の樣に。 兩肱ヲヤヽ屈シテ手ハ左右ニ

櫻が散るよ。 開キ蝶ノ翅ノ如ク動カシツヽ、緩ヤカニ右回轉ス

風に吹かれて。 兩手ヲ左右ニ十分伸バシ極メテ輕ク蝶ノ風ニ吹カレテ飛ブ如ク手ハ上下ニ大キク動カシツヽ、左横足二回

お池を越えて。 同樣ニシテ右ヘ横足二回

さくら。 左足一歩前ニ右手ヲ左前ニ掌ヲ下ニシテ出ス

何處まで、 右足一歩前ニ左手ヲ右前ニ出ス

ちつて。 一回拍手スルト同時ニ手ヲ兩側ニ開キ(肩ノ高サヨリヤヽ高ク)足ハ膝ヲ出シ右足ヲスリツヽ、左足ニツケ、踵ヲ上グ

ゆく。 靜カニ手ヲ兩側ニ下ロスト共ニ踵ヲツク

二　ピアノ

圓形ヲ作リ圓心ニ向フ

ポンポンポン。 右手ニ「タクト」テ持ヲル如ク體前中央ニ目ノ高サニ上ゲ左手ニ手背ヲ腰ニツケ用意シ右手ヲ下ニ次ニ左ヘ次ニ右ヘ次ニ上ヘ

ポンポンポン。 同前

ピアノガ。 兩手ヲ體前中程ニ指尖ヲ曲ゲテ出シピアノヲ彈ズル如クシテ兩手ヲ次第ニ左右ニ

開クコト（四度ピアノヲ彈ズ）

ポン。 更ニ大キク一回開キ

ポンポン。 中央ニ近ク二回彈ジテ兩手ヲソロヘル

手を。 一回拍手ス

たゝき。 三回拍手ス

うたへ。 手ヲ下ニシテ唱フ

こゑたかく。 兩手ニテ口ノ處ニ小サキ圓ヲ作リ

うたへ。 顏ヲヤヽ右上ニ向ケ（手モ共ニ）テ唱フ

いさましくなれよ。 右手ヲ堅ク握リ體前ニテ左ヘ右ヘ左ヘ右ヘ彎形ニ振ルコト八回、此時八歩前進ス左手ハ腰ニス

おもしろくなれよ。 兩手ヲ（指先ヲ揃ヘテ）體前ニテ山形ニ合セ左右ニ開キ又モトノ如ク山ニナシ又開クカクスルコト八回（極メテ輕快ニ）此ノ時八歩退ク

ポンポンポン。

ポンポンポン。

ピアノカポンポンポン。（初メニ同ジ）

三　飛行機

圓形ヲ作リ圓心ニ向ハシム

あれひかうきが。 右上ヲ眺メ四回拍手ス

とんで。 拍手シツヽアリシ手ヲ（掌ヲ下ニシテ）左右ニ開ク、此ノ時右足ヲ引キ、ヤヽ兩膝ヲ屈シ顏ハ右上ヲ向ク

くる。 直立ノ姿勢ニ戻ル

あんなにはやく。 左上ヲ眺メ四回拍手ス

とんで。 兩手ヲ開キ左足ヲ引キ兩膝ヲ屈シ顏ヲ左上ニ向ク

もうあれ。 左足ヲ一歩出シ右手食指ヲ左ニ半バ倒シ左斜上ヲ指シ目モ其方向ニ注グ此時上體ヲヤヽ右ニ傾ク

あそこに。 右足ヲ更ニ一歩出シ左手食指ヲ右ニ半バ倒シ右斜上ヲ指シ目モ其方向ニ注グ此時上體ヲヤヽ左ニ傾ク

とんできた。 掌ヲ下ニシテ兩手ヲ左右ニ開キ膝

ノ屈伸ヲ行フ（とん屈シできニテ伸シたニテ屈ス）

いますぐ。出シタル右足ヲ左足ヨリモ一歩後ロニ引クト同時ニ右手ヲ翳シ右上ヲ眺ム

みないと。左足ヲ右足ヨリ一歩後ロニ引クト同時ニ左手ヲ翳シ左上ヲ眺ム

かくれま。右足ヲ左足ヨリ一歩後ロニ膝ヲ屈シテ、スリツ、引ク時兩手ヲ左右側ヲ通シ、後ロヨリ上へ頭上ニ運ビ上體ヲヤ、前ニ屈シ兩指ヲ頭ノ前ニテ合ス

す。ニテ直立ノ姿勢ニ復ス。

○机邊より（三）

……彼はまた魔法使となつた。大股に野を濶歩しながら空を仰いで、大手を打振る。そして雲に命令する。「右に行け!!」と命じたけれども、左へ行つた。すると、此奴、何故、俺の云ふ事を聞かないかと云つてまた命令する。彼は横目して雲行を瞋みながら念じて居るけれ共、やつはり雲は悠々として左の方へと行く。其處で今度はウンと地を踏みつけ、ステッキで其雲を嚇かし、苛々しげに、「左へ行け」と命ずれば、今度は從順に左の方へと流れ行く。かうして彼は自分の力を誇つて喜んで居る。彼は、また、花に觸つて「黄金の車になれ」と命じた。仲々變らないけれ共、辛棒してゐたら變るだらうと思つて居た。蟋蟀を兎になさうと思つて瞋み、杖を靜つと其の背にのせて穏秘を唱へた。蟋蟀はピョン〳〵逃げる、「こいつ逃げてはならぬぞ」と其逃げ道を遮る、暫くすると彼は匐つて其に近寄つて見て居る、ずゝと、もう、魔法使であつた事は打忘れ、哀れな其兎を捉へて仰向になし、ケラと笑つて居る。——

——ローマン、ローラン——